

平成30年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営内部評価

《 財団目標 》

郷土愛を育み、教育、学術及び文化を振興し、広域交流を促進する。

《 評価の考え方 》

- ・ 当財団の目標、運営方針及び事業活動方針にもとづいて行われる財団の業務や活動の全般を評価対象とする。
- ・ 業務や活動は、本年度事業計画に記載された具体的取り組み等について、個々の事業の達成度合いをそれぞれの担当が評価する。
- ・ 可能なものは数値目標を掲げ、それ以外の目標も評価しやすい具体的な表現を心がける。
- ・ 達成度は右の4段階で評価し、平均値で表示する。
- ・ 評価結果から成果と課題を抽出して共有し、具体的改善策を講じて財団運営及び組織活動の改善を図る。

達成度

- 4 高い成果が得られている(95%以上)
- 3 一定の成果が得られている(80%以上)
- 2 まだ課題がある(80%未満)
- 1 成果が得られていない(50%未満)

事業名	活動方針	具体的取り組み(評価基準)	達成度	担当	成果(○)	課題(■)及び改善策(□)					
(1) 必要な図書、記録、資料の収集、保管、調査研究、公開展示及び利用に関する事業	① 上杉家・米沢藩ゆかりの資料及び郷土作家作品の収集と調査研究を体系的に進める	歴史関連	米沢藩・上杉家ゆかりの資料の発掘と追跡に努める	1.8	2.0						
			上杉邦憲氏寄託資料の概要調査を85%まで進める	1.8							
			受入資料の概要調査と目録作成を進める	2.5							
		美術関連	米沢・置賜ゆかりの作家及び作品の調査、情報収集を進める	2.0				2.2	学芸	○ 遺族との継続的な関りの中で多くの資料を寄贈いただいた。	■ 遺族の高齢化でさらなる情報収集が急務 ■ 大量資料の整理から調査につなげていく時間が不足している。
			上杉本洛中洛外図屏風に関する情報の収集と整理に努める	1.8							
			米沢出身近現代作家の一次資料、二次資料の収集を進める	2.8							
		今年度開催展覧会の展示資料や作品の調査及び準備を計画的に行う	2.5	2.4				○ 良質な資料の収集に努めた。	■ 調査研究能力の著しい欠如(博物館事業全般) ■ 予算額に合った入館者見込みの設定(費用対効果) ■ 購入資料については、基金の残額を考慮した購入が必要だが、突発的な事案など計画が立てにくい。		
		次年度以降開催予定展覧会の調査及び準備を計画的に進める	1.8								
		米沢市上杉博物館資料収集基本方針に基づき資料の収集・充実に努める	3.3								
	② 地域の人々が郷土に誇りと愛着をもち、観光客に感動を呼ぶ魅力的な展示をめざす	企画展示	特別展「直江兼続 兼続と新時代を切り開いた人たち」 職員評価平均値	2.8	3.3	学芸	○ 入館者数 12,070名/見込10,000名(121%) ○ 2020年に松濤美術館での展示が決まり、より多くの方に見てもらう機会を得られた。 ○ 助成金の採択を受けた。 ○ 入館者数 5,535名/見込4,300名(129%) ○ 入館者数 9,160名/見込10,600人名(86%) ○ 入館者数 15,207名/見込14,600名(104%) ○ 入館者数 4,690名/見込4,000名(117.3%) ○ 入館者数 4,331名/見込3,400名(127.3%)	■ 中長期的な改善計画の具体化			
			入館見込数を上回る	4.0							
			企画展「後藤克芳の世界 -アトがアトでなくなる瞬間!?-」 職員評価平均値	3.1							
			入館見込数を上回る	4.0							
			企画展「岩合光昭どうぶつ写真展 地球の宝石」 職員評価平均値	3.0							
			入館見込数を上回る	3.0							
			特別展「戊辰戦争と米沢」 職員評価平均値	2.9							
			入館見込数を上回る	4.0							
			企画展「上杉家伝来 皇室ゆかりの資料」 職員評価平均値	2.8							
入館見込数を上回る	4.0										
上杉博物館アトコレクション「美術の見方案内所Ⅱ」 職員評価平均値	3.1	3.0	事務局長 学芸	○ アンケート分析は終了	■ 方向性が具体化できていない。						
入館見込数を上回る	4.0										
職員と来館者の評価を適時に行い成果や課題を明らかにする	2.3										
常設展示	文華館では「初公開 上杉鷹山関連及び幕末・明治期資料」を12のテーマで紹介する	4.0	3.0	事務局長 学芸	○ アンケート分析は終了	■ 方向性が具体化できていない。					
	リニューアルに向けて問題点や課題の整理を進める	2.0									
		資料や設備・機器の修繕・更新を計画的に進める	3.5	総務		■ 館内全体の照明設備の更新計画 ■ 交換部品の枯渇により、大規模更新の必要性が増している。					

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）	
	先人顕彰コーナー	「図書館の絵図展4 明治初期の米沢城周辺」職員評価平均値	3.3	3.3	郷土資料 図書		
		「森英介展」職員評価平均値	3.2				
		「洋画Ⅲ 浜田浜雄展」職員評価平均値	3.2				
		「甘粕継成展」職員評価平均値	3.5				
		「写真で見る米沢のむかし展」職員評価平均値	3.4				
		「図書館の絵図展5 米沢の預地、越後国岩船郡の絵図」職員評価平均値	3.2				
		「洋画Ⅴ 黒澤梧郎展」職員評価平均値	3.5				
		郷土資料コーナーでは所蔵する古典籍・古文書をもとに年6本の展示を行う	4.0	郷土資料	○ 4/1、6/1、8/1、10/1、12/1、2/1展示		
	③ 市民に必要かつ有用な図書・記録等の収集に努め、広く利用に供し、相談に応じる	市立米沢図書館資料収集方針に基づき図書・資料の収集・充実に努める	4.0	3.4	図書 郷土資料	○ 登録者数 1,935名 ○ 貸出冊数 401,060冊 ○ 貸出冊数 36,838冊	
		利用者の求めに応じ、他館との相互貸借を円滑に行う	3.5				
		新規登録者数は2,500人超をめざす	2.0				
		本館の年度貸出冊数は40万冊を上回る	4.0				
		自動車文庫の年度貸出冊数は4万冊をめざす	4.0				
		各種のレファレンスや相談に丁寧に対応し、データベース化を進める	3.0				
	④ 文化財等の適正な保存・管理に努め、収蔵文化財総合データベースの充実を図る	新規受入資料のデータベース登録100%をめざす	2.0	2.7	学芸	○ 74%登録完了	■ 大規模資料群の受入れが続き、2,000点以上あるため100%の登録は困難。 ■ 国庫補助の受けられるものについて市との調整が必要だった。
受入資料の撮影および登録を30%進める。		3.0					
未受入資料及び寄贈・寄託資料の調査・受入作業を計画的に進める		2.8					
企画展等を契機に未撮影資料の撮影を計画的に進める		2.8					
資料の燻蒸、収蔵庫のクリーニング及びI P M管理を適切に行う		3.0					
所蔵する資料や芸術作品の修繕・修復を計画的に進める		2.5					
	収蔵庫や展示室の適正な空気環境の維持に不断に努める	3.0	3.5	学芸 郷土資料	○ 空気環境の安定が持続している。		
	収蔵文化財総合データベースの登録件数を1万3千500件まで増やす	4.0					
	デジタルライブラリー公開資料の翻刻掲載を計画的に進める	2.5					
(2) 教育・学術・文化施設との連携及び教育普及に関する事業	① 家庭教育の向上や学校の学習活動の支援に力を注ぎ、子どもの読書活動を推進する	「米沢市子ども読書活動推進計画」を積極的に推進する	3.5	3.8	図書	○ 贈呈 497組 ○ 43,697件（前年度比96.8%） ○ 参加者数 311人 ○ 6/11、6/25開催	
		ブックスタート事業で、7ヵ月児健康教室時に読み聞かせを行い絵本2冊を贈呈する	4.0				
		おはなしのへやでの「おはなしかい」を月3回開催する	4.0				
		図書館団体貸出制度の利用促進に努め、利用件数で前年度を上回る	4.0				
		読書活動推進の一環として、市内小中学生読書感想画展を開催する	4.0				
		夏休み子ども図書館フェアを11日間開催し、前年度の2倍以上の参加者をめざす	3.0				
		小学校巡回文庫は市内全小学校を対象に年4回の配本・回収を行う	4.0				
		「アタゴオル」による絵本読み聞かせを年2回以上開催する	4.0				
		高校生以下の希望者に、自己の読書履歴を記録する「読書通帳」を配付する	4.0				
		② 日常的な地域学習の場となる多様なプログラムを用意し、学社連携を推進する	PSは季節企画と造形体験を柱に展開し、前年度の入場者数を上回る				
	WSは「つくる」をテーマに、毎回定員の80%以上の申込数をめざす		3.0				
	「ナイトツアー ようこそ夜の博物館へ」を年2回開催する		4.0				
	チルドレンキュレーターズ育成プログラムを年11回実施する		4.0				
	ミュージアムスクールと出前授業を合わせて年15時間以上実施する		4.0				
		米沢市中学生チャレンジウィークを受け入れ、趣旨に沿って指導する	3.0				
	博物館実習とインターンシップ指導プログラムの充実を図る	2.5					

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）			
③ 生涯学習施設また地域の交流拠点として、市民の学習と活動の機会を提供する	教育事業	特別展等の理解深化を目的に年2回の講演会等を開催する	4.0	3.8	学芸	○ 春・秋の特別展で開催 ○ 「明和六年 米沢城下絵図デジタルマップ」ウェブ版の公開開始。マスコミの反応は良かった			
		企画展等の会期中に年10回以上のGTを開催する	4.0						
		文華館では小テーマごとに計12回のCTを開催する	4.0						
		上杉家・米沢藩の歴史理解に資するコンテンツを新規に制作する	4.0						
		レファレンスは内規に従って処理し、データベース化を進める	2.8	3.5	図書 郷土資料			○ 西部小にて2回実施 ○ 10月に3回実施 ○ 2月に2回実施 ○ 11月に3回実施	□ 2019年は文化課に引き継ぐ
		こどもふるさと歴史講座を年2回、2校を対象に開催する	2.0						
		ふるさと歴史講座を年3回開催する	4.0						
		古文書解読講座を年2回開催する	4.0						
	古典文学講座を年3回開催する	4.0							
	普及事業	上杉博物館年報（29年度版）と伝国の杜だより（年2回）を発行する	4.0	3.6	学芸	○ 6月と11月に実施	■ 執筆者の決定などの段取りが悪い ■ 担当とFSの連携強化		
		博物館所蔵美術作品を年2回、市内の学校・公共施設に貸し出す	4.0						
		ホームページやブログ、フェイスブックでの広報頻度を上げる	2.8						
		伝国の杜ポケットスケジュールを制作し広報に努める	4.0	3.5	総務	○ 7回開催、193名参加			
		内覧会の広報に努め、1回あたり平均20名超の参加をめざす	4.0						
		中学生・高校生の「無料観覧証」の利用促進に努める	2.5	3.2	図書 郷土資料	○ 4/7、7/1、10/1、1/1 発行 ○ 420名 (付録抽選応募者含む・前年比109%)			
		ナセBAホームページの充実・更新に努める	3.3						
		「図書館だより」を年4回発行する	4.0						
		読書週間図書館フェア関連事業の参加者は前年度を上回る	4.0						
		障がい者の学習支援体制の整備を進める	1.5	3.5	舞台		■ 使用後のご意見集約の流れ		
	施設貸与事業（博会議室）	貸出基準にもとづき適正に貸与する	4.0						
	金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	3.5							
	（駐車場）	利用者のニーズを把握し、前年度実績を上回る利用をめざす	3.0	4.0	総務	○ 定期的関係者打合せでの周知			
		金銭処理や利用実績の管理及び各種報告を適時適切に行う	4.0						
利用者のニーズを把握し、市と連携して利用促進に努める	4.0								
④ 市民の経験や知識及びボランティアと協働し、各施設のサービスの充実に努める	サポーター運営（伝国）	「活動要綱」に基づいて活動し登録数及び活動人数を増やす	3.0	3.2	サポーター 担当	○ 登録者数 24名（前年比82%） ○ 勉強会を通して研鑽に努めている。 ○ 図書館サポーターと合同でまなびあテラス、出羽桜美術館へ研修。	■ 活動人数の増強が継続課題		
		年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	3.8						
		洛洛案内人を継続して養成する。	2.8						
		「伝国の杜サポーター通信」を定期的に年4回発行する	4.0						
		よりよい活動に資するため館内及び館外研修を実施する	3.5						
		爾後の活動に資するためアンケートを実施する	2.3						
	（図書館）	年間活動計画を策定し、サポーターの活動機会を広げる	2.3	2.3	図書 郷土資料	○ 3月にサポーター通信を発行			
		よりよい活動に資するため館内研修を実施する	2.3						
		図書館サポーター活動への理解促進に向けた広報を充実する	2.5						
	（ギャラリー）	展示の企画や運営に市民の声を反映し内容の充実に努める	2.0	2.0	総務企画				
	ファンクラブ事業	特典の周知や広報活動を強化し350人の会員登録をめざす	3.0	3.5	FC担当	○ 登録者数 328人 ○ 適時に行った ○ 福島へのバスツアー実施 ○ 特典を一部拡充	■ 内容の充実		
		ファンクラブ会報（年2回）及び各事業情報を適時に送付する	4.0						
		ファンクラブ会員限定事業は貸切バスで県外研修に取り組む	4.0						
博物館及びホール事業未利用会員を15%未満に減らす		3.0							
さらに魅力あるクラブをめざしてPRを強化し、特典の見直しを進める		3.3							

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）		
③ 芸術・文化活動の創造、支援及び鑑賞機会の提供に関する事業	① 優れた作品や舞台芸術に親しむ機会を提供し、芸術・文化活動の創造気運を高める	県補助事業	カフェ・ライブ・シリーズ 職員評価平均値	3.3	3.7	舞台	○ 来場者数 84名／目標80名（105%）	
			入場見込数を上回る	4.0				
		市共催事業（文化ホール）	「ベルギー金管アンサンブル」 職員評価平均値	2.8	3.5	舞台	○ 来場者数 326名／目標315名（103.49%） ○ 来場者数 455名／目標367名（123.98%） ○ 来場者数 1,730名／目標1,500名（109.84%） ○ 来場者数 294名／目標301名（97.67%） ○ 来場者数 479名／目標420名（114.05%） ○ 9/1、9/29、11/6、3/11発表補助	■ 2019年の出前発表予定なし
			入場見込数を上回る	4.0				
			「三遊亭小遊三・林家たい平二人会」 職員評価平均値	3.0				
			入場見込数を上回る	4.0				
			「吹奏楽の日コンサート2018」 職員評価平均値	3.0				
			入場見込数を上回る	4.0				
			「新・純邦楽ユニット WASABI」 職員評価平均値	3.0				
			入場見込数を上回る	4.0				
		市共催事業（文化会館）	「ケロボンズ」 入場見込数を上回る	4.0	4.0	舞台	○ 2公演ともチケット完売	
			「DRUM TAO」 入場見込数を上回る	4.0				
			事業計画書や広報計画書及びチラシ等を適時に作成し、広報活動を強化する	3.0	3.0	舞台	○ 能公演で積極的に情報提供し、事前報道があった。	
			自主事業入場者のアンケートを分析して、次年度以降の採択事業に反映させる	3.0				
			ギャラリー	「米沢の四季展」 職員評価平均値	2.6	3.0	総務企画 図書 郷土資料	○ 来場者数 1,829名／見込1,800名（101.6%） ○ 来場者数 954名 ○ 来場者数 3,840名／見込3,000名（128%） ○ 来場者数 1,749名／見込2,000名（87.4%）
		入館見込数を上回る		3.0				
		「米沢出身のアーティスト展」 職員評価平均値		2.9				
		入館見込数を上回る		2.0				
		「亀岡亜希子絵本原画展」 職員評価平均値		3.4				
	入館見込数を上回る	4.0						
	「ARTS MEET OKITAMA2019、2018大賞展」 職員評価平均値	3.4						
	入館見込数を上回る	3.0						
		芸術団体や上杉博物館と連携し、市民の芸術鑑賞の機会を広げる オープンギャラリーでは郷土出身作家作品を年間4回展示する	3.0	3.5	総務企画	○ 計3回展示替実施（年4期間の展示）		
	オープンギャラリーでは郷土出身作家作品を年間4回展示する		4.0					
		② 充実した展示機能で新たな芸術活動にも対応し、市民の活動成果を広く公開する	市民の多様な芸術文化活動の発表の場をつかいはやく提供する	3.0	3.5	図書館長 総務企画	○ 稼働率 94.7% ○ 稼働率 66.3%	
			市民の芸術文化活動の拠点として機能する	2.8				
			市民ギャラリーは公平・公正を旨として運営し、80%以上の稼働率をめざす	4.0				
		体験学習室は50%以上の稼働率をめざす	4.0					
	③ 活動を楽しみ交流する場を提供し、次世代を担う子どもや若手芸術家を育成する	地元のアマチュア活動団体等に活躍・研鑽の場を提供する	3.0	3.5	舞台	○ 初のオーケストラクリニック実施 ○ 親子137名招待		
		地域の小中高生50名の、当ホールコンサートへの招待を支援する	4.0					
		中心市街地の活性化支援としてウッディコンサートを年間7回開催する	2.0	2.5	総務企画	○ 6/28 7/26 8/23 11/22 2/28開催		
		次世代を担う子どもや若手芸術家の育成を支援する	3.0					

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）		達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）			
④ 能舞台を活用して伝統芸能の継承・普及につながるプログラムを展開する	県補助事業	山形県能楽の祭典 職員評価平均値	入場見込数を上回る	2.6	2.7	舞台	○ 来場者数 98名/見込200名 (49%) ○ 来場者数 415名/見込321名 (129.28%)			
			金剛流能公演 職員評価平均値	3.2						
			入場見込数を上回る	4.0						
			新作こども狂言を発表する。	3.5						
			狂言クラブでは年15回以上の稽古、年4回以上の発表を行う	4.0						
			能狂言を通して広域の交流を促進し、演技の向上をめざす	3.5						
		④ 歴史・芸術・文化活動拠点の運営に関する事業	① 上杉家・米沢藩及び郷土作家研究の拠点として、広く開かれた施設をめざす	所蔵資料の解読、写真撮影及び目録作りを計画的に進める	資料の特別利用・貸出及び掲載許可等は規則にもとづいて厳格に行う	2.4	3.1	学芸局長	○ 直江展、後藤展、戊辰展で発行	
					年間2冊以上の企画展図録を編集・発行する	3.2				
					サポーター洛案内人による国宝屏風の説明を日常化する	4.0				
					年間10回程度、研修会や講演等の講師として成果を市民に還元する	3.0				
大学や研究機関との協力や共同研究を進め、学芸員の力量を高める	3.0									
古文書資料や郷土資料の整備を進め、市民や研究者の利用に供する	4.0									
ミュージアムショップ事業	商品の陳列・宣伝など、展覧会と連動した運営を行う			3.0	3.0	総務学芸	○ セール、サインや陳列の工夫により積極的に過去図録を販売 ○ 4種類の商品を新規製作 ○ 前年度比約65%	■ 決済方法、通販発送方法の再検討		
	展示に関連する在庫図録の販売を積極的に行う			4.0						
	新規商品の開発に取り組み、三つ以上製品化する			2.7						
	利用者の利便性と販路拡大のためWebショップを充実させる			2.8						
② 市民の伝統文化活動を支援するとともに、歴史・芸術・文化の情報発信に努める	芸術文化活動のための施設貸与事業（ギャラリー）	貸出基準に基づき、公益性を保って適正な運営に努める	4.0	3.5	総務企画図書館長					
		米沢市芸術文化協会と連携し、利用者に喜ばれる運営を行う	3.5							
		施設情報の発信に努め、地域の芸術文化の振興に寄与する	3.0							
		施設の管理を適切に行い、施設・設備の適正な維持に努める	3.5							
		「座って行う日本文化」の活動施設として適正な運営に努める	4.0							
	(座文)	喜ばれる運営をめざし、利用件数・利用者数で前年度並みを維持する	2.0	3.2	総務	○ 件数 224件（前年比 82%） ○ 利用者数 3,593名（前年比70%）				
		施設の管理を適切に行い、施設・設備の更新を計画的に進める	3.5							
		第28回市民茶会への入場者200名以上をめざす	4.0							
	座の文化伝承館自主事業	蔵のコンサートの入場者50名以上をめざす	4.0	3.9	舞台 学芸	○ 入場者 211人 ○ 入場者 58人 ○ 入場者 339人				
		「地域の活力 ～小貫幸太郎氏の写真から」展の入場者200名以上をめざす	4.0							
サポーターとの協働を積極的に進める		3.8								
③ 利用者の声を集め反映する仕組みを整え、市民に開かれた運営をめざす	清掃や環境美化に努め、清潔で快適な空間づくりに努める	利用者の意図を理解した上で説明と対応を丁寧に行う	3.0	2.9	図書郷土資料		■ 来館者全員に願っているアンケートの実施 □ 廃棄作業を計画立てて行う			
		各種アンケート調査を実施・分析し、来館者サービスに反映させる	3.0							
		市民の声を職員会議等で検討・共有し、運営の改善に努める	2.0							
		市民の声を職員会議等で検討・共有し、運営の改善に努める	3.0							
		図書館蔵書の除籍と廃棄を適時に行う	3.5							
④ まちづくりネットワークと連携し、にぎわいと活力あるまちづくりに寄与する	市中心市街地活性化協議会等と連携してにぎわいづくりに貢献する	「こまや」を活用し、地元商店や各種団体との共催事業を季節ごとに行う	3.0	2.7	図書館長	○ 中心市街地活性化協議会と連携し花植栽、ランチマップ作製等実施	■ 一層のこまや活用			
		ブックカフェの適切な運営により憩いの空間を提供する	3.0							
		ブックカフェの適切な運営により憩いの空間を提供する	2.0							

事業名	活動方針	具体的取り組み（評価基準）	達成度	担当	成果（○）	課題（■）及び改善策（□）	
(5) 財団の適正な運営に関する事業	① 公共施設であることを念頭に、経営基盤の安定と利用者及び収入の確保に努める	法令や関係協定及び財団の定款・諸規程に基づき適正な管理を行う	3.0	3.2	事務局長	○ 191,020人	
		理事会や評議員会等の開催及び運営を円滑に行う	3.0				
		予算の執行及び財務管理を適正に行う	3.0				
		財団運営に必要な外部の研修会及び研究会等へ計画的に派遣する	3.0				
		伝国の杜の利用者総数は20万人を上回る	4.0	3.0	総務		
		予算書、事業計画書及び決算書、事業報告書を期限内に作成する	4.0				
		博物館入館料は収入見込み額を確保する	3.0				
		ギャラリー、駐車場の使用料を適正に徴収し期限内に市に納付する	4.0	3.5	学芸		
		50万円を目標に寄附金受け入れ業務に積極的に取り組む	1.0				
		博物館常設展・企画展の延べ入館者数は12万人超をめざす	4.0				
		体験学習室利用者数は延べ1万2千人超をめざす	3.0	3.5	舞台		
		県補助事業及び市共催事業の会計事務処理を適正に行う	3.0				
		文化ホール自主事業入場者4千人超をめざす	4.0				
		図書館閲覧室の延べ入場者数は20万人超をめざす	4.0	4.0	図書館長		
	図書館学習室の延べ利用者数は8万人超をめざす	4.0					
	市民ギャラリーの延べ入場者数は4万人超をめざす	4.0					
	② 施設個々の機能の向上と発揮に努めるとともに、施設相互の適切な連携を進める	職員の勤務シフトを計画的に作成し、緊急時の職員配置も確実に行う	3.3	2.3	総務 総務企画	○ 利用者数 27名（前年比20%）	■ 郷土作家の作品が見られて良いと好評の一方展示環境の不安は継続してある。 ■ 全ての自主事業に学芸美術担当が関わっているが、業務分掌と合致していない。
		各施設の総合管理業務委託者と調整を密にし円滑な施設管理に努める	2.7				
		図書館カード利用による博物館入館者数は前年度を上回る	1.0	3.0	学芸 総務企画		
		市民ギャラリー自主事業へ貸し出す美術作品等の選定・管理を適切に行う					
		職員の勤務シフトを計画的に作成し、緊急時の職員配置も確実に行う	3.0				
	③ 米沢・上杉の歴史と文化を発信し、文化及び観光の交流拠点をめざす	博物館の展覧会に合わせて関連図書の特集コーナー等を設ける	3.5	3.3	図書 郷土資料	○ 延べ4,264名（前年比89.7%）	
		博物館の展覧会やホール自主事業で、上杉文化エリア懇話会会員との連携を促進する	3.0				
		観光拠点の一つとして、米沢四季のまつりに積極的に参加する	4.0	3.8	総務		
		施設内外の案内表示の修繕・更新及び環境の美化に努める	4.0				
		ホームページ、ブログ、フェイスブックの充実・更新に努める	4.0				
		有料・無料の広告媒体を積極的に活用して広報に努める	4.0				
博物館無料入館の日の周知・広報に努め、前年度同日の入館者数を上回る		3.0					
④ 入場者と職員の安心・安全を第一に、施設設備の保守及び危機管理に取り組む	業務・事業の見直しを進め、時間外労働や多忙感の縮減に努める	2.0	2.7	事務局長			
	施設・設備の保全に努め、修理と更新を計画的に進める	3.0					
	職員の健康診断及び健康保持に関する業務を適正に推進する	3.0					
	火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する	4.0	4.0	総務			
	マイナンバー等個人情報の保護に細心の注意をもって当たる	4.0					
	置賜の庭の環境整備及び行屋の維持管理に努める	4.0					
	火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する	4.0	4.0	図書 郷土資料			
	利用者の個人情報は関係法令と財団規程にもとづき厳密に扱う	4.0					
	博物館無料入館の日の周知・広報に努め、前年度同日の入館者数を上回る	3.0					
	⑤ 複数の内部評価・外部評価に取り組み、運営やサービスの改善に努める	財団運営の目標及び方針を明示し、財団運営自己評価シートを作成する	4.0	3.2			事務局長
複数の評価に取り組み、事業やサービスの改善・向上に努める		3.0					
新採研修や各種研修会を効果的に実施し職員の資質の向上をめざす		3.0					
伝国の杜運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める		3.0					
ナセBA運営協議会を年2回開催し、運営や事業の改善に努める		3.0	3.8	総務			
普及ミーティングを毎月開催し、スタッフの資質向上をめざす		4.0					
接遇マニュアルの更新を進め、接客サービスの向上に努める		3.5					
ソフトターゲットテロ対策マニュアル策定に取組んだ。							

網掛け は収益等事業